

〈解答〉

- ① (1) シダ植物
 (2) C
 (3) ① イ ② イ (完答)
 (4) ① 仮根 ② ア (完答)
 (5) 〔例〕 イヌワラビにはあるが、2図の植物にはない。
 (6) 孢子のう
 (7) エ

配点 各1点 7点満点

〈解説〉

- ① (1) イヌワラビは、シダ植物とよばれる植物に分類される。シダ植物は、種子植物とは異なって、花をさかせず、種子もできない。
 (2) シダ植物の場合、地上に出ているすべての部分が葉である。茎のように見えるBを葉の柄（葉柄）といい、葉の柄も葉の一部である。なお、Cの茎は地下にあることから、特に地下茎とよばれる。また、Dは根である。このように、シダ植物の体には根・茎・葉の区別がある。
 (3) コケ植物には雄株と雌株の区別があり、2図の植物はゼニゴケの雌株である。ゼニゴケの雄株と雌株は、下の図のように、傘のような部分の形状で区別する。



ゼニゴケの雌株



ゼニゴケの雄株

- (4) 根のように見える、2図のYを仮根という。コケ植物の仮根は種子植物やシダ植物の根とは異なり、土中の水を吸収する役割はない。したがって、コケ植物は、水を体の表面全体から吸収している。そのため、コケ植物は湿りけのある場所にしか生育

できない。なお、仮根の役割は、体を地面などに固定させることである。

- (5) (2)の解説で述べたように、シダ植物の体には根・茎・葉の区別がある。また、シダ植物の体の中には発達した維管束が通っている。なお、コケ植物の体には根・茎・葉の区別がなく、維管束も見られない。
- (6) 3図のPは、葉の裏側にできる胞子のうを表していて、この中につまんでいる粒(胞子)によってなかまをふやしている。乾燥すると胞子のうがはじけて胞子を飛ばす。胞子は、湿りけのある地面に落ちると発芽して、やがて若いシダ植物へと成長していく。
- (7) 選択肢アのイチョウは裸子植物、イのタンポポは被子植物の双子葉類(合弁花類)、ウのトウモロコシは被子植物の単子葉類に属し、これらはいずれも種子をつくってなかまをふやしている。